

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年12月25日

協議会名:塩尻市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
アルピコタクシー株式会社	<p>●北小野線 (勝弦先廻り) 塩尻駅前～塩尻東保育園前～塩嶺別荘口～勝弦詰所前～小野駅～小野駅西～塩尻東保育園前～塩尻駅前(古町先廻り) 塩尻駅前～塩尻東保育園前～小野駅西～小野駅～勝弦詰所前～塩嶺別荘口～塩尻東保育園前～塩尻駅前</p>	<p>前回計画では、令和4年5月に実施したダイヤ改正での3箇所 のバス停追加及びフリー降車 制度を導入したことで、利用者 の拡大を図った。 しかし、ダイヤ改正直後で新た に実施した事業に対する認知 度が低く、利用者の大幅な増加 には至らなかった。結果的に目 標値を下回ったため、今回は現 状を考慮しつつ目標値の見直 しを行った。 今年度は利用者回復に向け て、フリー降車制度が利便性の 高い制度であることを広報誌等 を通じて周知した。</p>	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施された	C 1回当たり10人、年間利用 者数11,640人の目標値に対 し、それぞれ8.6人、10,063 人と目標を下回る結果と なった。 目標値は達成できなかった が、前年度と比較して該当 地域の居住人口が同水準 であったことを考えると、利 用者数は全体的に微増傾 向にあり、4月以降は1便あ たり9人を超える利用があ り、目標値に迫ることができ た。	<p>利用者回復に向けて重要と考 えるフリー降車制度は現在、北 小野線を含め3路線で導入して いるが、利用者は北小野線が 突出して多いため、引き続き利 便性の高い制度であることを広 報誌や地区回覧等でPRし利用 者の増加に努める。 また、現状で1回あたりの利用 者が8.6人であるとともに利用 者が微増していることから、一 度で大量に輸送できる体制が 必要なため、定時定路線型の バスの運行維持が必須であ る。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年12月25日

協議会名:	塩尻市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市は木曾地域の北東端に位置する急峻な山岳地帯と松本盆地の南端に扇状地帯をなしており、約290.18km<sup>2</sup>の面積を有しています。本市は民間路線が次々と廃止される中で、高齢者等の交通弱者の移動を支援する目的で平成11年から塩尻市地域振興バスの運行を開始し、市街地だけでなく農山村地域の暮らしも維持し「まちなかの便利な生活」と「農山村地域のゆとりのある生活」を両立する地域公共交通体系の実現を目指しています。</p> <p>その中で、北小野地区はJR小野駅があるものの、地区の一部は駅から1km以上離れている集落は交通不便地域となっていること及び市街地周辺と比較して老年人口割合が高くなる傾向が顕著に出ており、今後は生活支援としての交通手段の確保・維持が重大な課題となってきます。</p> <p>本事業では公共交通空白地解消のため、買い物や通院など日常生活を支えるサービス水準を確保するための交通ネットワークを形成していくことを目的としています。しかし、山間部等を経路としていることや交通不便地域を可能な限り経路としている関係上、経路の長大化及び燃料費や人件費等の運行経費増加は避けられない状況であり、路線確保維持には当該事業が必要不可欠であります。</p>